

CRDS における俯瞰報告書の全体構成

JST 研究開発戦略センター（CRDS）は、国内外の社会や科学技術イノベーションの動向及びそれらに関する政策動向を把握・俯瞰・分析することにより、科学技術イノベーション政策や研究開発戦略を提言し、その実現に向けた取組を行っている。

CRDS は 2003 年の設立以来、科学技術分野を広く俯瞰し、重要な研究開発戦略を立案する能力を高めるべく、その土台となる分野俯瞰の活動に取り組んできた。特に近年、科学技術と社会との関係が深化する中で、図 1 に示すように科学技術分野および社会の状況を把握することに加え、分野間の融合や分野を越えた動きを捉える中から提言等を取りまとめる努力をしてきた。当然この過程において、研究開発コミュニティー、政策立案者、産業界を含めた社会のさまざまなステークホルダーと対話し、参加を得ることは、研究開発戦略を立てる上で必須の取り組みである。

本報告書、俯瞰報告書統合版（2019年）では、図 2 に示すように各分野別に発刊されている俯瞰報告書の内容のポイントを集約しつつ、社会や政策等の動向を踏まえた上で分野を越えた全体像として捉えることを目指した。具体的な構成としては、まず本報告書の 1.において、研究分野毎の俯瞰を行うにあたって押さえておくべき前提、CRDS 内にて現時点で共有されている問題意識として、グローバルトレンド、科学と社会に係る動向、科学技術イノベーション政策の俯瞰、主要国の動向等を取りまとめた。1.を踏まえた上で 2.においては、まず 2.1 において分野融合や分野を越えた動きを含めた全体を概観し、2.2 において分野別版の俯瞰報告書の結果から、「世界の潮流」「日本の位置付け」「日本の挑戦課題」を抽出し取りまとめた。2.2 の詳しい内容については研究分野毎に 2.3～2.6 に概要としてまとめたが、より詳しくは分野別版の俯瞰報告書を参照頂きたい。最後に 3.において科学技術イノベーションの今後の課題に関して、重要と考えられるポイントについて考察を行った。

なお本報告書以外の俯瞰報告書についても簡単に説明すると、分野別版の俯瞰報告書（2019年）では、研究分野ごとに、俯瞰対象分野の全体像（俯瞰の構造と範囲、研究開発の歴史・変遷、研究開発を取り巻く現状、今後の展開と日本の研究開発戦略の方向性）を記述するとともに、国内外の研究開発動向や科学技術的・政策的課題、日・米・欧・中・韓等の国際比較（基礎研究／応用研究・開発フェーズごとの現状・トレンド）などの情報をまとめている。これに加え、我が国における科学技術イノベーション政策の歴史的な変遷については、「日本の科学技術イノベーション政策の変遷」として、研究開発戦略を立案する際に参考になる重要な主要国の研究開発戦略については、「主要国の研究開発戦略」として、それぞれ別冊で取りまとめた。

本冊子、俯瞰報告書統合版（2019年）でまとめた内容については、関係ステークホルダーに発信していくこととしており、また、日本の挑戦課題として浮かび上がった項目については、今後、CRDS において深掘り検討を進めていく予定としている。

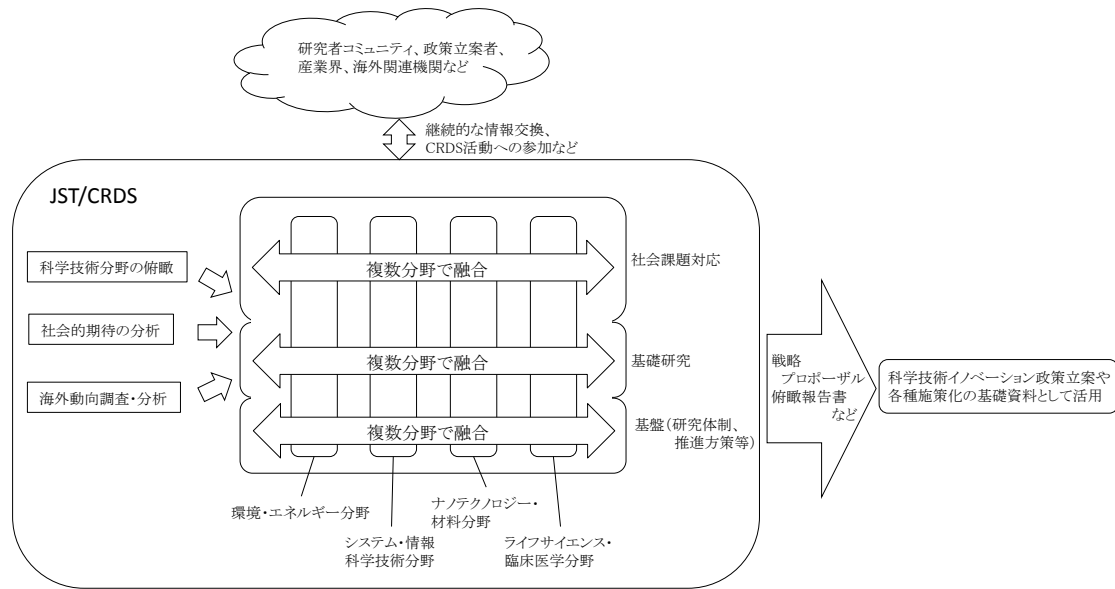


図1 CRDSの活動を概念的にまとめたもの。研究開発戦略を社会課題対応、基礎研究、基盤（研究体制、推進方策）の3つの観点から検討するとともに、各種ステークホルダーとも対話しつつ、常に複数分野を融合した内容により提言等を作成している。

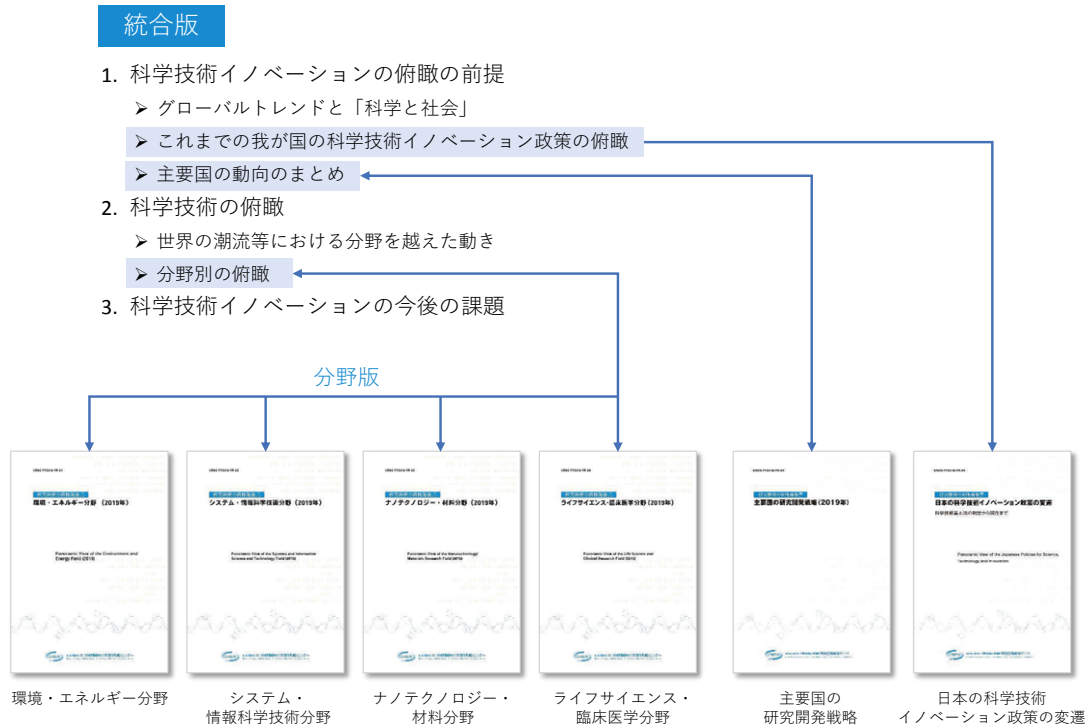


図2 研究開発の俯瞰報告書（2019年）の構造